



麻酔を受けることになったら？

前回は「麻酔って何？」というテーマで、麻酔のことを簡単に紹介させていただきました。
2回目となる今回は、「麻酔を受けることになったら？」というテーマで、
麻酔が決まってから手術室に向かうまでの流れや注意点についてご説明します。

Text by 欧州日本人医師会 福井公子 医師/麻酔科 (マインツ ドイツ)

+ 麻酔科の手術前診察と説明

手術や検査が決定し、麻酔が必要だと判断されると、麻酔科医による問診、診察、麻酔の説明が行われます。日本では手術前日に麻酔担当医本人が病室を訪問するのが通常ですが、海外では外来で行われる手術前の検査と併行して麻酔科の診察が行われることも珍しくありません。術前診察を行う医師と麻酔担当医が異なることもよくあります。

麻酔科医の問診では、幼少時を含めた病気や手術の有無、本人・血縁者を含めて麻酔や手術時に異変がなかったか、アレルギー、喫煙歴、今飲んでいる薬などが聞かれますので、事前に調べておきましょう。問診・診察後、手術前日から当日の過ごし方、麻酔の方法・手順、麻酔中や手術直後に起こりうる合併症、手術後の痛みへの対処方法などについて説明され、麻酔の同意書に署名をします。不明点や疑問点、心配事があれば質問をして、十分納得した上で署名するようにしてください。

手術の種類や問診・診察の結果によっては、血液検査に加えて心臓や肺の検査が必要になることもあります。普段飲んでいる薬の服用は、一時的にやめる場合とそのまま続ける場合があります。事前に確認してください。手術や麻酔の準備のための薬が追加されることもあります。

+ 自宅での体調管理が重要！

海外では、医療費を抑えるために入院期間をできるだけ短くする傾向があります。そのため、大きな手術でも前日、小さな手術であれば当日朝の入院となることがほとんどですので、自宅での体調管理が重要です。無理はせず、風邪を引かないように注意して、普段薬を飲まれている方は変更の指示を守って過ごしてください。もし手術前に発熱やひどい咳など、明らかな体調の変化が起こった場合には、できるだけ早く手術を担当する医師に連絡を取って、指示を仰いでください。

+ 手術室に向かう前の注意点

手術前日の夕食が終わった後は絶食となりますが、水だけは当日早朝まで飲んで構いません（ジュースやコーヒー、牛乳などは不可）。手術当日の朝、続けて飲むよう指示された薬はできるだけ少ない水で飲んでください。緊張を和らげるための鎮静剤を渡された場合、服用後は身体がふらふらして立ち上がると危険ですので、できるだけベッドで安静にし、必要なときは必ず介助してもらるようにしてください。

手術の時間が近づくと、後ろ開きの薄い上着と血栓防止のための弾性ストッキングに着替えます。弾性ストッキングは、慣れていないと履きにくいかもしれませんが、きちんと着用しないと効果がありませんので、必要であれば看護師に手伝ってもらってください。この際、眼鏡、指輪やピアスなどの装飾品や入れ歯は外して、安全な場所に保管しておくようにしましょう。

さて、最終回となる今回は、手術室に入ってから手術が終わり病室に帰ってくるまでの流れについてお伝えします。

欧州日本人医師会 電話無料健康相談のご案内

(ご注意：診察ではありません)

欧州9カ国、20名余りの非営利団体に属する日本人医師が、海外赴任や旅行など不慣れた海外生活での医療に関する、無料の健康相談を行います。

● 健康相談日時：火・水・木曜日

(ヨーロッパ中央時間)	水・木曜日	21:00 - 22:00
	火曜日	22:00 - 23:00
(イギリス/アイルランド)	水・木曜日	20:00 - 21:00
	火曜日	21:00 - 22:00

● 電話番号：+49 9951 9493 399

※この電話番号は相談専用電話のため、上記の時間以外では使えませんのでご注意ください。

無料健康相談担当医師一覧は以下のサイトでご確認ください。

<http://www.eu-jp-doctors.org>